

## 第12回地域に飛び出す公務員を応援する首長連合サミット in 岐阜市のまとめ（認識共有）

首長連合事務局

### 1 首長会議で一致した事項

#### (1) 営利企業従事許可について

自治体ごとに許可対象の範囲が異なっていることを踏まえ、

①国に統一的な基準づくりについて要望する

②首長連合として標準的な目安を作る

のいずれが良いか協議した結果、②の方向性で一致。

##### 【理由】

- ・ 地域の実情に応じ、地域で決めるという自主性を大事にすべきであること。
- ・ ①の場合、国において法的な安全性を重視した統一基準を作る可能性があり、現在各自治体が行っている取組の一部が認められなくなるなど、「藪蛇」となる恐れがあること。

#### (2) 人材の流動化について

流動化の流れは止められない。これに合わせた、より弾力的な仕組みづくりが必要。

地域に飛び出す公務員を応援するという趣旨だけでなく、様々な分野で能力を発揮したい職員を後押しし、公務員全体のモチベーションをどう高めるかということプラスして考えるべきという認識で一致。

(弾力的な仕組みづくりが必要として出た主な意見)

- ・ パートナシップを組んでいる自治体の中でキャリアを引き継げること。
- ・ 公務員が退職して地方議会等の選挙に出た場合、再び公務員として復帰できること。
- ・ 国家公務員（国と民間企業等との間の人事交流に関する法律（官民人事交流法））のように、地方公務員についても民間企業等へ派遣しやすい制度を構築すること。
- ・ 市町村の専門職不足対策として、県にある職種は県が採用して派遣、ない職種は市町村連携を強化すること。

### 2 首長連合としての今後の取組

#### (1) 営利企業従事許可について

##### ア ガイドラインの作成

農山村と都市部では事情が異なるため、画一的でない“緩い”標準的なガイドラインを事務局でたたき台として作成。サミット不参加の自治体の意見も聴きながら検討を深め、首長連合としての標準ガイドラインを作成する。

⇒アンケート結果を見ると、消極的運用をしている自治体があるが、標準として示すことで、より踏み込みやすくする。

##### イ 国との意見交換

国としてどこまで認めるのか、感触をサウンディングして確認（藪蛇とにならないよう留意）。

結果を首長連合として共有し、今後の対応に活かす。

#### (2) 人材の流動化について

地域に飛び出す公務員を応援するという趣旨だけでなく、公務員全体のモチベーションをどう高めるかということプラスして、より弾力的な仕組みづくりに向け、今後議論を深める。

(関東知事会や市長会で論点として取り上げていく)